

にゅーす きじ ねん がつ
ニュース記事から (2024 年 12 月～2025 年 5 月)

新闻摘要

有关遗华日本人等、中国・库页岛归国者の新闻

ちゅうごくざんりゅうほうじんとう からふと さ はり ん き こくしゃかんれん にゅーす
中国残留邦人等、中国・樺太(サハリン)帰国者関連のニュース



12 月 23 日(星期一)

一部追溯夜间学校历史的《全国夜间初中相关史料集》全 22 卷(不二出版社)已编纂出版。自战后混乱时期以来,这些学校一直接收着没能充分接受教育的人群。该史料集记载了始于 1954 年的夜间初中全国组织的大会资料、宣言及决议等内容。透过这些史料,我们可以窥见夜间初中随着时代的变迁而不断变化的面貌:这里的学生有因白天工作无法上学的孩子、在日朝鲜人、遗华日本人、外国劳工以及拒学学生等。

12 月 27 日(星期五)

目前,长野县史学家正着手研究如何保存及公开森田节夫先生(出生于现长野县木曾町人)遗留的“满蒙开拓青少年义勇军”日记等史料。森田先生 14 岁加入满蒙开拓青少年义勇军,16 岁去世。赴前满洲开拓者所写的日记,大多在战败和被遣返时的混乱中丢失,像这样实时写下的日记而非回忆录,能够留存下来实属罕见。这份日记对于了解当时的生活状况与开拓者们的心境具有珍贵价值。2025 年正值战后 80 周年,该日记成为再次传递和平宝贵价值的资料。



1 月 11 日(星期六)

岩手县宫古市举办了一场讲述战争时期经历等的活动。“宫古・下闭伊地区战争记录会”每年都编纂一辑体验集《活在战争年代》,在第 9 辑投稿者记述的经历里,收录了一位遗华妇女战后在前满洲得到当地中国人的救助,组建家庭,最终

12 月 23 日(月)

戦後の混乱期から、教育を十分に受けられなかった人々を受け入れてきた夜間中学校、その歴史をたどる『全国夜間中学校関係史料集』全 22 卷(不二出版)が編纂された。史料集の内容は、1954 年から始まった夜間中学校の全国組織の大会資料、宣言や決議など。史料集からは、働くため昼の学校に通えない子、在日コリアン、中国残留邦人、外国人労働者、不登校の生徒等、時代とともに変わりゆく夜間中学校の姿が見えてくる。

12 月 27 日(金)

森田節夫さん(長野県現木曾町出身)が残した「満蒙开拓青少年义勇军」の日記などについて、郷土史家らが保存や公開方法を検討している。森田さんは 14 歳で満蒙开拓青少年义勇军に入り、16 歳で亡くなった。开拓のため、満洲へ渡った人の日記は、敗戦と引き揚げの混乱で失われたものが多く、かつ回想ではなくリアルタイムで書き残された日記はめずらしく、当時の生活や心情を知る上で貴重という。2025 年は終戦から 80 年。改めて平和の貴さを伝える資料だ。

1 月 11 日(土)

戦時中の体験などを語り継ぐ催しが、岩手県宮古市で開かれた。「宮古・下閉伊地域の戦争を記録する会」が、毎年作成する体験集「戦争の時代を生きて」の第 9 集に寄せた人たちが発表し、その中には敗戦後の旧満洲で中国人

返日の話。54 名参加者认真聆听了讲述内容。该团体负责人表示：“今年是战后 80 周年，我们希望能制作一本符合这一重要节点之年的体验集，并策划一些方便参与者互动交流的活动。”

2 月 25 日(星期二)

新潟县的高桥健男先生于去年秋天出版了《新潟县满蒙开拓移民研究数据集》。引发高桥先生展开此项研究的契机，是在他担任新潟县一所中学校长期间在报纸上看到了一篇关于前开拓民故地重游的新闻报道。新潟县前往满洲的移民人数约有 1.3 万人，位居全国第五。该数据集汇集了县内各地刊发的约 8000 条有关开拓事业的报道标题，并按刊登顺序排列了“大陆新娘”、“青少年义勇军”等关键词。高桥先生表示，期待这本数据集能为今后的研究者提供帮助。

3 月 1 日(星期六)

北海道中国帰国者支援・交流中心举办了一次“了解中国和库页岛归国者聚会”。一位遗华孤儿（2016 年去世）的妻子讲述了丈夫归国后依然艰辛的生活经历。其丈夫因脑梗塞需要护理，但由于不谙日语又抗拒接受护理服务，因此她只能一个人在家照料丈夫的排便、饮食等日常生活起居。她回忆说：“照料期间虽然很辛苦，但他大概是因为有我这个会说中文的妻子才觉得满足吧”。

之后还在聚会中由首都圏中心培训的“战后世代讲述人”讲述了一位遗华孤儿的故事。讲述中的这位女士在 8 岁时从养母那里得知自己是日本人。在 1994 年集体访日调查的会场，她担任翻译工作，期间有两位女士上前与她交谈，得知她们是来寻找留在中国的妹妹。在交谈中发现彼此的身世有共同之处，于是进行了 DNA 鉴定，最终确认这位担任翻译的女士正是她们要寻找的妹妹。

に助けられて家庭を築き、その後帰国がなかった
ざんりゅうふじん はなし さん かしゃ ねっ
残留婦人の話もあった。54 人の参加者が熱
しん みみ かたむ だいひょう ことし
心に耳を傾けた。会の代表は「今年は戦後 80
年。節目の年にふさわしい体験集を作り、参加者
たちが語り合えるような催しを企画したい」と話
す。

2 月 25 日(火)

にいがたけん たかはしたけ あ さくねんあき
新潟県の高橋健男さんが、昨年秋、「新潟県
いみんけんきゅうてーたぶっく かんこう
満蒙开拓移民研究データブック」を刊行した。
高橋さんは新潟県内の中学校長を務めていた
ころ みる げんちほうもん かん しんぶん きじ
頃、元开拓民による現地訪問に関する新聞記事
を目にしたことが、研究のきっかけだった。新潟県
からは約 1 万 3 千人が満洲へ渡り、
全国で 5 番目に多い。データブッ
くは県内各地で発行された開拓
じぎょう せんほん
事業に関する約 8 千本の記事の
みだ けいさいじゆん なら たい
見出しが、掲載順に並んだ「大
りく はなよめ
陸の花嫁」「青少年義勇軍」などのキーワードと
いっしょ こんご けんきゅうしゃ
一緒に並ぶ。このデータブックが今後の研究者
かつよう きたい
に活用されることを期待しているとのことだ。



3 月 1 日(土)

「中国・樺太帰国者を知る集い」（北海道中国
からふと きこくしゃ つど ほっかいどう
帰国者支援・交流センター主催）が開かれた。残
しえん こうりゅうせん たーしゅさい
留孤児となった男性（2016 年逝去）の妻が、日本
こじ だんせい せいきよ つま にほん
に帰国後も苦労した男性の体験談を語った。夫
のこうそく ようかいご にほんご ふじゅう
は脑梗塞で要介護となったが、日本語が不自由で
かいご いや じたく はい
介護サービスを嫌がったので、自宅で排せつや
しょくじ ひとり かいじょ たいへん ちゅうごくご
食事を一人で介助。「大変だったが、中国語を
話せる妻で満足してくれたのではないかと振り返
かえ
返った。

また、集いの中では、首都圏センターが育成した
しゅとけん いくせい
せんごせだい かたべ
「戦後世代の語り部」による中国残留孤児の講話
じよせい ときにほんじん
も行われた。講話の中の女性は 8 歳の時日本人で
ようぼ しゅうだん
あることを養母から知らされた。1994 年の集団

4 月 12 日（星期六）

讲述开拓团历史的“满蒙开拓和平纪念馆”推出了一项新项目，由前开拓团成员的子女一代与来访者交流对话。在战争经历者不断减少的情况下，举办此次活动，旨在传承历史记忆。新项目“周六对话会”将安排第二代讲述者登台（分享经历），包括开拓团员子女以及遗华孤儿家属。该活动将于每月第二个星期六举行。

5 月 6 日（星期二）

诗人冈耕秋（本名：满冈刚太郎）（91 岁）等人正在编纂一部诗集——《全国引扬诗・引扬手记记录集》（全 5 卷），该诗集汇集了战后从前满洲、朝鲜等地撤回日本的人们所写的诗歌和回忆录。在提供诗作的投稿人中，有一位女士这样说道：“我心中始终有一个无法愈合的伤口。写诗，既能不忘那些悲惨的往事，同时也能疗愈我那受伤的心灵”。冈先生表示：“把自己的经历写成诗歌，意味着直面自己当时的心境，也是一种有别于纪实文学的方式，以此来传播那段惨痛的历史”。咨询请联系“引扬诗”记录会事務局（电话：0957-24-6488）。

5 月 11 日（星期日）在日本奈良县香芝市举办了一场交流会，参与者包括遗华日本人第二代以及从前满洲遣返回来的人，并分享了各自的经历。此次活动是由当地非营利组织“为了和平的香芝战争展”策划举办的。活动开始时，首先介绍了从奈良县前往中国东北的“满蒙开拓团”历史，以及战争结束时被遗留在当地的众多日本人的遣返经历。50 名参与者在聆听归国者在中国的体验之后，欣赏了身着中国民族服饰的归国者



ほうにちちようさ かいじょう つうやく とぎ
訪日調査の会場で通訳をしていた時、中国に
のこ いもうと さが き ふたり
残した妹を捜しに来た二人の女性に話しかけら
れた。互いの身の上話に共通点があったことから DNA 鑑定を行い姉妹であることが判明したという。

4 月 12 日（土）

だん れきし きねんかん
开拓団の歴史を伝える「満蒙开拓平和記念館」
もと だんいん こ らいじょうしゃ たいわ
は、元开拓団員の子の世代が来場者と対話する
しんきかく はじ げんしやう
新企画を始めた。戦争体験者が減少する中、歴史
う
を受け継ぐためだ。新企画「土曜セッション」は、
かぞく じ とうだん
団員の子や中国残留孤児の家族ら次世代が登壇す
る。セッションは毎月第 2 土曜日に開かれる予定。

5 月 6 日（火）

ちやうせん
戦後、旧満洲や朝鮮などから引き揚げてきた人
たちの詩や手記を集めた詩集「全国引揚詩・引揚
しゅき きろくしゅう しじん おかやすあき ほんみよう
手記記録集」（全 5 巻）を、詩人の岡耕秋（本名・
みつおかこうたろう へんさん
満岡剛太郎）さん（91 歳）らが編纂している。詩
を寄せたうちの一人の女性は「癒えない心の傷を
ずっと抱えていた。詩を書くことで、悲惨な出来事
を忘れないようにするとともに、傷んだ心を清め
てきた」と話す。岡さんは「詩にするのは、当時の
じぶん お きろくぶんがく
自分の心情に向き合うことであり、記録文学とま
ちが ちが
た違った形で、悲惨な歴史を伝えることになる」と
話している。問い合わせは「引揚詩」記録の会事務
きよく
局（0957・24・6488）へ

5 月 11 日（日）

せい しゃ
中国残留邦人 2 世や満洲からの引き揚げ者らが、
体験を語って交流する集いが、奈良県香芝市で開
かれた。

じもと てん
地元の NPO が「平和のための香芝戦争展」を企
画。冒頭では県内から大陸に渡った満蒙开拓団や、
しゅうせんじ と
終戦時に取り残された多くの日本人による引き揚
げの歴史について説明された。50 名の参加者は帰
国者による中国での体験を聞いた後、中国の民族衣

の舞蹈表演，进一步加深了交流互动。

5 月 29 日(星期四)

创作型歌手加藤登纪子（81 岁）在藤泽市的中式餐厅举办了一场谈话音乐会。除了热门歌曲《百万玫瑰》之外，她还演唱了几首描绘自己成长经历的歌曲——她出生在前满洲，并在战后经历了被遣返回国的历程。其中一首歌《遥远的故乡》饱含了她对哈尔滨的深厚情感，那是她 1 岁时日本战败、并一直生活到一年后登上遣返船的地方。加藤歌手今年将迎来歌唱生涯 60 周年，值此这一重要节点，她表示："现在不说更待何时"的倾述欲望变得愈加强烈。

◆请注意：本栏目的新闻为见诸报端的报道摘要，并非政府正式公布的内容，其中一部分还包含媒体的观察消息。

しょう につ にお ぶよう かんしょう
装に身を包んだ帰国者が躍る舞踊を鑑賞して
交流を深めた。

5 月 29 日(木)

シンガーソングライターの加藤登紀子さん（81 歳）が藤沢市の中華料理店でトークライブを開いた。ヒット曲「百万本のバラ」の他、旧満洲で生まれ、戦後引き揚げを経験した生い立ちを歌った曲などを披露した。歌った曲の一つ「遠い祖国」は、加藤さんが 1 歳の時敗戦を迎え、1 年後に引き揚げ船に乗るまで暮らしたハルビンへの思いがつつられている。今年歌手生活 60 周年の節目を迎える加藤さんは「いま語らなければ」との熱い思いが高まっていると話す。

◆ご注意：本欄の内容は、一般の新聞などで報道された内容を中心に要約して掲載しています。したがって、政府が公式に発表したものではなく、一部には報道機関の観測記事なども含まれています。